



## シリーズ 企業訪問

あかつき

# 暁精機株式会社

～ 地元下郷町とともに発展する  
品質にこだわるモノづくり企業 ～

### 企業概要

代表者：代表取締役社長 小杉 一世      創 立：1973年 4 月  
所在地：南会津郡下郷町大字高陲字人数平乙1088      T E L：0241-68-2325  
資 本 金：2,500万円      F A X：0241-68-2566  
従 業 員：42名      U R L：http://www.akatsuki-seiki.co.jp/  
事業概要：自動車用駆動系部品製造



代表取締役社長  
小杉 一世（こすぎ かずとし）

大内宿や湯野上温泉などで有名な下郷町は、国道121号を40km近く南下すれば栃木県境となる関東圏に近い立地条件にあります。さらに、平成20年の国道289号甲子トンネルの開通によって交通アクセスが改善されています。

当社は、約40年前に栃木県から当地に進出し、雇用の場として地域に根付いています。また、自動車部品産業という競争の激しい環境変化を乗り越えてきました。

今回は小杉社長に会社の歩み、生産体制、製品への思いなどについてお聞きしました。

### ○ 創業から現在までについて

#### ～ 栃木県から下郷町へ進出～

当社は栃木県にある車のユニットメーカーの栃木富士産業(株) (現 GKN ドライブラインジャパン(株)) の100%子会社として昭和48年4月に下郷町に創立されました。同社で働いていた下郷町出身の期間工たちは真面目な仕事ぶりが高く評価されました。その中のリーダーからの地元で年間通して働ける場所が欲しいとの声に応じて、当地に工場進出したのです。

親会社が外資企業の傘下に入るにあたり、子会



当社工場



材料や製品が整然と並ぶ工場内通路

社を保有しないという方針となり、平成17年4月に当社従業員持株会と群馬県の(株)吉田鉄工所が株主となり独立しました。同年6月に同じく子会社であった栃木県の芳賀精密(株)を吸収合併し、現在に至っています。

### ○ 経営理念や従業員育成について

#### ～1人1人がオールラウンドプレーヤー～

当社の設立経緯が当地の雇用維持に貢献しようというものでありますので、従業員の雇用を図り地域とともに発展することが経営判断の基本となっています。従業員は地元下郷町と会津若松方面、南会津町方面が各3分の1ずつを占めています。中には、天栄村から通勤する社員もおります。自動車部品業界は競争が激化し、価格競争に打ち勝たなければならず、1人あたりの能力・生産性を向上させなければなりません。限られた人員の中で各人がどの機械も操作でき、どの工程でも何でもできる「多能工化」を図っています。全員が励まし合い競い合いながら、「切磋琢磨と技術向上」をモットーにモノづくりに取り組んでいます。

### ○ 事業内容について

#### ～当社製品はクルマの駆動系部品～

当社では、自動車の駆動系とエンジン系の金属部品の製造を行っています。親会社であったGKN

ドライブラインジャパン(株)からの受注が大半です。車はボディとシャシから成り、シャシ構造には骨格にあたるフレームと心臓にあたるエンジン、動力伝達装置などから構成されています。当社が扱うのは、自動車がエンジンからの力を前輪と後輪に分ける「トランスファー」、最終減速ギヤの「ファイナルデフ」、「フロントホイール」、後ろ車軸の「リアアクスル」などに使用される部品を生産しています。車の運転は、「駆動させる・止まる」という運転者の意思が瞬時かつ正確に伝わらなければなりません。特に雪国においては凍結路や圧雪路を走るためになおさらです。そのことを意識して、より高性能な部品づくりを心掛けています。

### ○ 製品の移り変わりについて

#### ～40年間のノウハウ～

自動車部品製造業界は国内他社のみならず、海外との激しい競争となる厳しさがあります。当社は会社創立から生産してきたオイルポンプと30年間生産していたリングギア機械加工を平成18年に生産打ち切りしました。世界で材料革命がおこり価格が劇的に安くなると国内では太刀打ちすることができません。また、為替動向もあり、生産の海外移転が進んだ業界でもあります。生産品はその時代によって移り変わっていくものであり、技術



当社製品の一例「コンパニオンフランジ」



当社製品の一例「リアカバー」

革新などにより我々はいかに生き残っていくか迫及していかなければなりません。

当社には40年近くにわたる自動車部品製造で培った技術ノウハウがあります。お客様が今求めている製品の最適な設計を提案し、材料購入から完成加工までの一貫した工程管理のもとで品質保証された製品提供を行うことで新たな製品づくりに取り組んでいます。

### ○ 生産体制について

#### ～最小の投資で最大の効果を～

生産ラインにたずさわっている者は30名おり、昼夜を1直2直に分け24時間体制で稼働しております。同じ機械を2台入れるのではなく、人を入れ替えて昼夜同じ機械を使用することで、機械設備のコストを低減させています。

当社の生産は一貫生産ラインでの「1個流し」が基本です。1個流しの場合、1つの工程に入ったら完成するまで1個ずつ製品を仕上げるようになります。これに対し「ロット生産」があります。ロット生産の場合、フライスならフライスという工程を1通り終わらせてから次の工程に入り最後の工程で初めて1個の製品が完成します。ロット生産の場合には、たとえば工程途中でもう少し薄く切ったほうが良かったと気づいても、全部が不良品となってしまいます。1個流しは不良



品質のチェックを兼ねたインライン圧入機

品としてロスするリスクが少なくなり、また、全部の材料が手元に無くても生産に取り掛かれるメリットもあります。

これまでは回転している工作物に工具をあてて削る旋削加工が大半でした。しかし、様々な顧客ニーズに対応するために、工作物は固定し工具を回転させて削るフライス加工にも力を入れるなど、工法の多角化を図っています。

### ○ 受注体制について

#### ～限られた時間で最良の品質を～

3カ月前に顧客から大まかな受注見通しは示されますが、注文が確定するのは納入日の3日前になります。顧客からの納入指示がパソコンのネットワークを通じて届きます。それを基にして、工程表及び作業スケジュールを作ります。3日間で納入することは時間的に忙しいですが、社員が効率的に動き仕事をこなしています。同じ労働時間の中でもいかに労働生産性を高め仕事量を増やしていくか常に考えながら、仕事に取り組んでいます。社員が良い製品をより安くより短い納期で製造するために日々努力を積み重ね、改善するための提案を行っています。そこから暁精機だからできる製品が生まれます。

### ○ 品質について

#### ～生産ラインに組み込まれた品質管理～

自動車業界では製品の品質に対して要求されるレベルは非常に高いものがあります。「品質は工程で作り込む」という考えから、想定される不具合を未然に防止するための仕組みづくりを行っています。生産ラインについては、規格外のものが次の工程に流れないように、不良品が出た場合は次工程に流れない設定とするなど対策をとっています。

また、工場入口にロス発生数などの不良品データを掲示することにより、社員の意識向上を図っ

ています。このように当社は総合的な品質保証が行える体制を整えています。

○ 東日本大震災の影響について  
～生産は数カ月でV字回復～

当社では物理的な被害はなく、震災当日の夜勤も通常通り稼働しました。しかし、顧客サイドが震災の影響で稼働不能となったことや材料が入荷しないこと、栃木県の会社へ外注に出す熱処理工程ができないなどにより震災のあった3月から4月は休業状態でした。回復したのは車メーカーが再開した5月になってからであり、6月以降は震災で止まっていた反動で需要が急増しました。

当社では、材料を削った際に出る金属の切り粉を鉄鋼材料として関東のリサイクル業者に引き取ってもらっていますが、原発事故の風評影響については、線量について1度照会を受けた程度です。会津の放射線量が低く問題がないことを説明したことで納得頂きました。

○ 今後について  
～下郷町で長寿会社を目指す～

我が国の自動車業界は系列が崩れグローバル化が進んでいます。車のプラットフォームは共通部品が多いため、大量製品を中心にコストの安い海外に生産が移転する傾向にあります。当社としても環境変化にいち早く順応し、国内で生産するメリットを見出さなければなりません。

当社は独立するまでは親会社からの受注が100%を占めていました。今は旧親会社以外からの受注比率が僅かながら上がってきました。更に新しい顧客を開拓し、この比率を高めていくことが課題となっています。そのため、今まで行っていなかった営業活動にも積極的に取り組んでいます。当社の様々な加工ができること、確かな品質、低コスト、短納期といった長所をアピールし、より多くのお客様との取引に結びつけていきたいと思



様々な機械が並ぶ工場内

います。

当社は設立の経緯から地元下郷で操業し、従業員の豊かな生活を支えていくことが社会的使命です。今後も下郷に根付いた地域企業としてこの地で長寿会社となることを目指していきます。

【インタビューを終えて】

取材日はその2日前が大雪でしたが、当社社屋・工場と駐車場は綺麗に除雪され我々を出迎えて頂きました。工場案内をして頂いた際に、ちょうど製品搬送のための大型トラックが工場に到着しました。工場長は「この雪でも時間どおりです」と説明され、時間と戦いながら製品を納入しているという姿勢がひしひしと伝わってきました。さらに、社長や工場長が熱く製品について語られたのが印象に残りました。

自動車部品業界は競争が激しく、環境変化が激しい業界ですが、当社は、社長をはじめとした社員の団結力と切磋琢磨する向上心によって、様々な局面を乗り越えてきました。

当社が長寿会社として下郷町に根付いて、これからも地域とともに発展していくことが展望することができた取材となりました。

(担当：高橋)